

平成 25 年度

公立大学法人静岡文化芸術大学
事業報告書

平成 25 年度公立大学法人静岡文化芸術大学事業報告

平成 25 年度の事業については、中期計画の達成に向け、これまでの事業内容と進捗状況を検証し、本学の将来を見据えて、教育の充実、学生支援の充実、研究の推進、地域貢献及び国際交流の推進、FD・SD活動の推進等を重点に置いて、次のとおり実施した。

1 法人運営管理

(1) 役員会、経営審議会、教育研究審議会及び参与会の開催等

ア 役員会

役員会を 14 回開催し、法人及び大学の管理・運営に関する事項を審議した。

回数	開催日	議案等
第 1 回	4 月 11 日	<ul style="list-style-type: none">・平成 25 年度特別研究費の配分額の決定について・受託事業について
第 2 回	5 月 8 日	<ul style="list-style-type: none">・専任教員の採用募集について (協議事項)・平成 24 年度 年度実績について
第 3 回	6 月 26 日	<ul style="list-style-type: none">・平成 24 年度 事業報告及び決算報告（財務諸表等）について・平成 24 年度 年度実績報告について・デザイン学部・学科の再編成基本計画（案）について・受託事業について
第 4 回	7 月 24 日	<ul style="list-style-type: none">・デザイン学部・学科の再編成基本計画について・専任教員の採用について
第 5 回	8 月 28 日	<ul style="list-style-type: none">・平成 25 年度 収支補正予算（案）について・公立大学法人静岡文化芸術大学役員報酬の特例に関する規程の制定について・特任教員の設置に伴う関係規程の制定等について・特任教員選考採用実施方針（案）について・理事長の専決処分の承認について (研究員の設置に伴う関係規程の改正)
第 6 回	9 月 11 日	<ul style="list-style-type: none">・公立大学法人静岡文化芸術大学職員等給与の特例に関する規程の制定について・特任教員の採用について・受託事業について

第7回	10月9日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度第2回収支補正予算(案)について ・静岡文化芸術大学学則の一部改正について ・静岡文化芸術大学大学院学則の一部改正について ・専任教員の採用について ・専任教員の採用募集について ・理事長の専決処分の承認について(非常勤講師の委嘱)
第8回	11月13日	<ul style="list-style-type: none"> ・専任教員の選考採用実施方針について ・特任講師の採用募集について ・非常勤講師の委嘱について ・理事長の専決処分の承認について(特任講師(中国語)の公募) ・学長の任期に関する規程の制定について
第9回	12月11日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度予算編成基本方針について ・学部の教育課程改正について ・専任教員の採用について
第10回	1月8日	<ul style="list-style-type: none"> ・学部の教育課程改正について ・専任教員の採用について ・非常勤講師の委嘱について ・受託事業について
第11回	2月13日	<ul style="list-style-type: none"> ・特任講師の採用について ・非常勤講師の委嘱について ・ボローニャ大学との学術交流協定締結について ・受託事業について
第12回	2月25日	<ul style="list-style-type: none"> ・静岡文化芸術大学副学長及び文化・芸術研究センター長の選任について
第13回	3月5日	<ul style="list-style-type: none"> ・浜松市との相互協力及び連携に関する協定の締結について ・非常勤講師の委嘱について(協議事項) <ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度事業方針(案)について ・平成26年度年度計画(案)について ・平成26年度収支予算(案)について

第 14 回	3 月 26 日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 26 年度 事業方針（案）について ・平成 26 年度 年度計画（案）について ・平成 26 年度 事業計画（案）について ・平成 26 年度 収支予算（案）について ・広報計画について ・静岡文化芸術大学大学院学則の一部改正について ・公立大学法人静岡文化芸術大学組織規則等の一部改正について ・公立大学法人静岡文化芸術大学非常勤役員等の災害補償規則の一部改正について ・公立大学法人静岡文化芸術大学顧問の選任について ・名誉教授の称号授与について ・非常勤講師の委嘱について ・平成 26 年度特別研究費及びイベント・シンポジウム開催費の配分について
--------	----------	--

イ 経営審議会

経営審議会を 8 回開催し、法人及び大学の経営に関する重要事項を審議した。

回数	開催日	議案等
第 1 回	5 月 8 日	(協議事項) ・平成 24 年度 年度実績について
第 2 回	6 月 26 日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 24 年度 事業報告及び決算報告（財務諸表等）について ・平成 24 年度 年度実績報告について ・デザイン学部・学科の再編成基本計画（案）について
第 3 回	8 月 28 日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 25 年度 収支補正予算（案）について ・公立大学法人静岡文化芸術大学役員報酬の特例に関する規程の制定について ・特任教員の設置に伴う関係規程の制定等について
第 4 回	9 月 11 日	<ul style="list-style-type: none"> ・公立大学法人静岡文化芸術大学職員等給与の特例に関する規程の制定について ・学長選考会議の構成員選出について
第 5 回	10 月 9 日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 25 年度第 2 回収支補正予算（案）について ・静岡文化芸術大学学則の一部改正について ・静岡文化芸術大学大学院学則の一部改正について
第 6 回	12 月 11 日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 26 年度予算編成基本方針について ・学部の教育課程改正について

第7回	3月5日	(協議事項) <ul style="list-style-type: none"> 平成26年度 事業方針(案)について 平成26年度 年度計画(案)について 平成26年度 収支予算(案)について
第8回	3月26日	<ul style="list-style-type: none"> 平成26年度 事業方針(案)について 平成26年度 年度計画(案)について 平成26年度 事業計画(案)について 平成26年度 収支予算(案)について

ウ 教育研究審議会

教育研究審議会を11回開催し、大学の教育研究に関する重要事項を審議した。

回数	開催日	議案等
第1回	4月11日	・静岡文化芸術大学学生委員会規程の一部改正について
第2回	5月9日	・静岡文化芸術大学英語・中国語教育センター運営会議規程について (協議事項) <ul style="list-style-type: none"> 平成24年度 年度実績について
第3回	6月6日	<ul style="list-style-type: none"> 平成24事業年度に係る業務の実績に関する報告書について デザイン学部・学科の再編成基本計画について
第4回	7月4日	<ul style="list-style-type: none"> 客員研究員の受入れについて デザイン学部・学科の再編成基本計画について
第5回	9月5日	(報告事項のみ)
第6回	10月3日	・学長選考会議の構成員選出について
第7回	11月7日	・学部の教育課程改正について
第8回	12月5日	<ul style="list-style-type: none"> 学部の教育課程改正について ボローニャ大学との学術交流協定について 平成26年度 学年暦について
第9回	1月9日	・ボローニャ大学との学術交流協定について

第10回	2月6日	<ul style="list-style-type: none"> ・新教育課程運営を検討するための組織体制について ・大学院文化政策研究科の学則改正について (協議事項) ・平成26年度 年度計画について
第11回	3月6日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度 事業方針(案)について ・平成26年度 年度計画(案)について ・静岡大学情報学部との単位互換協定について

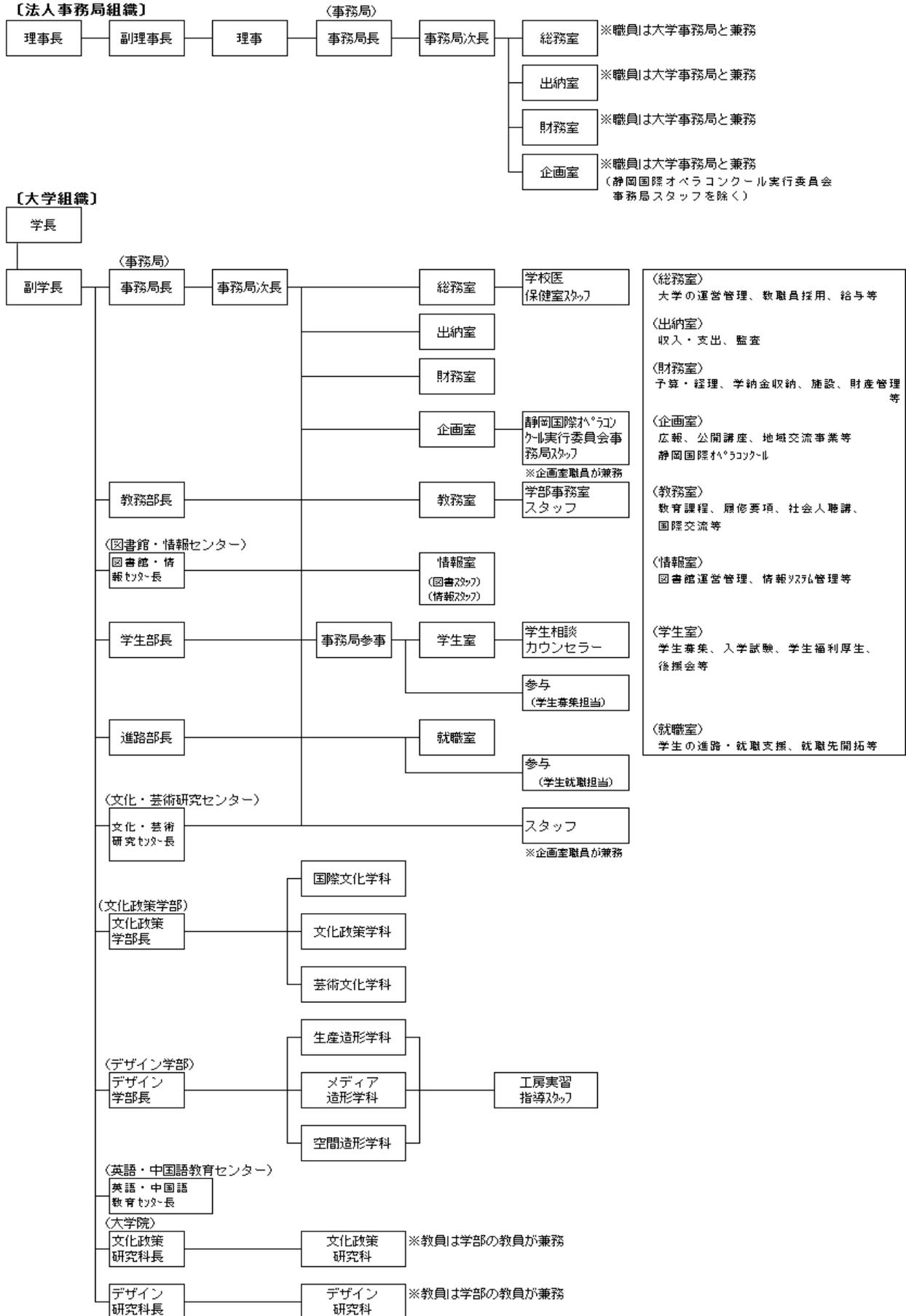
エ 参与会

法人及び大学の運営に関する外部の意見を反映するため、参与会を2回開催した。

区分	開催日	提案された主な意見等
第1回	10月9日	<ul style="list-style-type: none"> ・斬新なデザイン・設計もよいが、日本人には日本人の伝統があり、その地域に育まれた歴史や文化を踏まえた教育に努めてほしい。 ・自分の体験をとおして学ぶという教育が大切である。 ・デザインは生活やライフスタイルに深く関わっており、他の分野と交流することでよりよいものが生まれてくる。積極的に両学部が交流できるような場を設けてほしい。 ・浜松はモノづくり地域であるので、学生が発信しそれを企業が製品化することで、学生の意欲向上、地域の活性化、大学の発展につなげてほしい。
第2回	3月6日	<ul style="list-style-type: none"> ・浜松市には多くの外国人が住んでおり、特にアジア系が多いという特性を踏まえ、英語、中国語だけでなくアジア系の語学教育にも力を入れてほしい。 ・地域のまちづくり等に積極的に学生を活用できるようにしてほしい。 ・開学以来続いている薪能を拡大して、文化面でより地域貢献を推進してほしい。 ・自治体への就職者を増やし、地域おこしにつなげてほしい。 ・企業との共同研究等をとおして学生を育てるなど、実践を学べる教育をしてほしい。

(2) 法人及び大学組織

法人及び大学組織としてそれぞれに職員を配置し、法人及び大学運営を執行した。



(3) 運動場用地の借用等

- ・所在地：浜松市北区初生町（県有地） ・面積：8,584 m²
- ・賃借料：無償

(4) 教職員住宅の確保

ア 所有住宅

- ・名称：ビオラ田町（浜松市中区田町） ・戸数：25 戸

イ 借上住宅

ビオラ田町に入居できない教職員で、教職員住宅を希望する者に対して、4 戸の借上住宅を提供した。

(5) 校舎管理

ア 大学校舎の警備、清掃及び設備管理等を業者委託により実施した。

(ア) 主な委託業務内容

警備業務：24 時間体制の有人による警備

清掃業務：床、窓、トイレ等の定期的な清掃

設備管理：中央制御監視又は遠隔操作等による 24 時間管理体制、設備保守等は有人による管理

(イ) その他：電話、電気、消防用施設、昇降機、植栽等の管理業務を委託

イ 施設・設備の整備

施設管理業務支援システムを活用し、中長期的な視点に立った施設・設備の保全見通しに基づき、優先度の高い箇所の整備、補修を実施した。

2 教育研究の実施

(1) 授業実施等

ア 学生の状況（学部）

（平成 25 年 5 月 1 日現在）

学部名	学科名	定員 (人)	学 生 数 (人)						
			1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	合 計		
							計	男子	女子
文化政策学部	国際文化学科	100	116	110	104	120	450	86	364
	文化政策学科	50	53	56	64	57	230	63	167
	芸術文化学科	50	56	55	60	69	240	31	209
	小計	200	225	221	228	246	920	180	740
デザイン学部	生産造形学科	40	44	47	42	47	180	51	129
	メディア造形学科	30	36	35	37	43	151	30	121
	空間造形学科	30	37	33	33	36	139	41	98
	小計	100	117	115	112	126	470	122	348
計		300	342	336	340	372	1,390	302	1,088

イ 学生の状況（大学院）

（平成 25 年 5 月 1 日現在）

大学院	定員 (人)	院 生 数 (人)				
		1 年生	2 年生	合 計		
				計	男子	女子
文化政策研究科	10	6	9	15	5	10
デザイン研究科	10	10	13	23	13	10
計	20	16	22	38	18	20

ウ 授業日程等

日 程	授業等
4月 4日	入学式
9日	開学記念式（開学記念日：4月13日）
10日	前期授業開始
8月3・4日	オープンキャンパス（参加数：2,352人）
8月 9日	前期授業終了（集中講義等も含む。）
9月30日	後期授業開始
11月2・3日	碧風祭
2月19日	後期授業終了（集中講義等も含む。）
3月17日	卒業式

エ F D（ファカルティ・ディベロップメント）の取組み

教育・F D委員会において、組織的に教員の授業改善・教育の質の向上の意識啓発を図るとともに、効果的なF D活動を実施した。

- ・学部情報交換会の実施
- ・授業公開・授業見学の実施
- ・学科・研究科F D研修会の実施
- ・F Dニューズレターの発行
- ・他大学等の情報収集と研修への参加
- ・新任教員研修の開催
- ・授業に関するアンケートの実施

オ 教育課程の改正等

- ・学部の教育課程改正基本方針に基づき、平成27年度からの施行に向けて、その改正作業に取り組み、具体的な改正案を作成した。また、教育課程の改正に合わせて、ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシー案を作成した。
- ・英語等の語学教育の充実強化を図るため、平成25年度から英語・中国語教育センターを設置し、教育プログラムの検討、教員の採用、設備の整備等を行った。また、平成25年度入学者全員にTOE I Cブリッジテストを実施し、その結果に基づいた習熟度別クラスを編成して授業を行うとともに、学生の入学時以降の英語力伸長を正確に把握するため、英語コミュニケーションⅢ、Ⅳ及び英語上級Ⅲ、Ⅳの履修者全員にTOE I C I Pテストを実施した。

カ 学籍・教務情報システムの導入

- ・学籍・教務情報システムを導入し、平成25年度後期からW e bからのシラバス入力、成績登録を行えるようにした。
- ・平成26年度からのW e b履修登録、W e bポータル等の稼働を目指して、マニュアルの作成、データの入力等準備を行った。

(2) 科目等履修生及び社会人聴講生の受入れ

ア 受入時期 年2回（出願時期 前期：2月、後期：8月）

イ 受入人数 1科目につき5人程度

ウ 履修科目 本学開設科目のうち、科目等履修生及び社会人聴講生公開科目

エ 履修期間 原則6ヶ月以内

オ 受講者数 (人)

区 分	前 期		後 期	
	実人数	延人数	実人数	延人数
科目等履修生	0	0	0	0
社会人聴講生	155	207	125	176
計	155	207	125	176

(3) 教員研究の実施

学内特別研究費の配分方針に基づいた配分及び外部資金の活用等により、積極的な研究の推進を図った。

ア 学内特別研究費による研究

ユニバーサルデザイン等の3つの重点目標研究領域を設定し、組織的、戦略的な研究活動を推進するとともに、学長等特別研究費による研究を実施した。

- ・学長等特別研究費による研究件数 24件 配分額 39,372千円

イ 外部資金を活用した研究

科学研究費補助金を活用した研究を実施した。

- ・実施件数 20件 10,972千円

(新規採択2件、継続6件、他機関からの転入2件、他機関研究者との分担研究10件)

ウ 共同研究及び受託研究等

外部機関との共同研究及び外部機関からの受託事業を実施した。

- ・共同研究 2件 850千円 (電動工具の人間工学的研究、自転車デザイン開発)
- ・受託事業 8件 6,320千円 (特産品パッケージデザイン等推進事業ほか)

3 大学広報及び学生募集

本学に相応しい学生を確保するため、新聞掲載等の各種広報や学校説明会等の学生募集事業を実施した。

平成25年度入試の結果概要及び26年度入試の実施方法の周知を広報内容の重点とし、またオープンキャンパスにおいては、入試概要説明のコーナーや個別受験相談のコーナーを設置するなど効果的な広報を行い、参加者数は2,000人を超えた。

(1) オープンキャンパスの実施

- ア 開催日 8月3日(土)及び8月4日(日)
- イ 事業内容 大学説明、学科説明、模擬授業、受験相談、実技講習会等
- ウ 参加対象 高校生を中心とした受験生
- エ 参加者数 2,352人

(2) 高校訪問等

教職員が県内外の高校等を訪問し大学のPR等を積極的に行った。(延べ1,738件)

また、静岡県内国公立大学合同入試説明会(年間7回、三島・静岡・浜松・豊橋にて開催)に参加し、本県の東部地区及び愛知県三河地区を重点対象地区として積極的に広報を行った結果、当該地区から一定数の入学者を確保することができた。

- ・県東部地区 23人(H24)→28人(H25)→22人(H26)
- ・愛知県 70人(H24)→75人(H25)→79人(H26)

(3) 広報媒体による大学広報

新聞、受験雑誌、掲示広告等により入口(入学者募集)・中身(教育研究、学生生活)・出口(就職支援)に係る広報を実施した。

(4) パンフレット等の作成

受験生向け・一般向けの大学パンフレット、大学院パンフレット、卒業研究制作作品集（カレンダー形式）、ニュースレター（新聞記事集）等を作成し、高校や予備校等に配付した。

(5) Webサイトによる情報提供

平成25年4月1日にリニューアルしたWebサイトにより、入試情報やイベント開催情報、本学学生の活躍の様子をわかりやすい形で掲載するとともに、平成25年11月1日よりスマートフォン用サイトの運用を開始し、増加しているスマートフォンユーザーへの対応を図った。

(6) 大学院の学生募集

研究意欲のある優秀な院生を確保するため、デザイン研究科において、前年に引き続き学内推薦入試を実施し、この入試制度による入学者を1名得ることができた。

4 入学試験の実施

(1) 学部学生

ア 募集人員 300人（入学定員と同数）

イ 募集方法 一般選抜（前期日程・後期日程）、特別選抜（推薦入試、社会人入試、帰国生徒入試、外国人留学生入試）

ウ 試験時期

区 分		文化政策学部	デザイン学部
一般選抜	前期日程	2月25日、26日	
	後期日程	3月12日	
推薦入試		11月23日	
社会人入試		11月23日	
帰国生徒入試		11月23日	2月25日
外国人留学生入試		11月23日	2月25日

* 大学入試センター試験は、1月18日・19日 * 試験会場はすべて本学

エ 入学試験結果

志願者数 1,798人（志願倍率 5.99倍）

合格者数 403人、入学者数 343人

(2) 大学院生

ア 募集人員 20人（入学定員と同数）

イ 試験時期

区 分		試験時期
学内推薦	デザイン研究科	6月14日
A日程	デザイン研究科	7月27日
B日程	文化政策研究科	9月21日
C日程	デザイン研究科	2月15日
	文化政策研究科	

ウ 入学試験結果

志願者数 26 人（志願倍率 1.30 倍）

合格者数 19 人、入学者数 19 人

5 学生の支援等

(1) 進路等支援

キャリアオフィスの機能（学生の就職相談及び就職情報の提供等）の充実を図るとともに、学生の円滑な就職活動を支援するための事業を実施した。

＜第 11 期生の就職状況＞

（平成 26 年 3 月 31 日現在）

	卒業者数 (人)	就職希望者数 (人)	内定者数 (人)	内定率 (%)
文化政策学部	213	191	182	95.3
デザイン学部	107	89	81	91.0
計	320	280	263	93.9

ア 支援体制

就職情報の収集や発信の拡充等を図り、学生の就職活動の中心拠点となるようキャリアオフィス機能を充実した。

(ア) 個別面談の実施

3 年生全員を対象に個別面談を行い、進路指導をするとともに、面談結果を踏まえた個別の就職支援を実施した。（318 人の学生と面談）

(イ) 就職ガイドブック等の配布

就職活動の仕方などを記載した「就職ガイドブック」、内定者の報告をまとめた「就職活動体験記」を作成し、3 年生及び教職員に配布した。

イ 支援事業の実施

(ア) 企業等訪問及び情報交換会等の実施

県内外の企業等の訪問を行い、就職先の開拓等を図った。なお、企業訪問を担当する専門職員により、愛知県等の県外企業への就職先の開拓や情報収集を実施した。

また、企業等の人事担当者を招き、教職員等との情報交換会を開催した。

（20 社、32 人の人事担当者が参加）

(イ) 求人依頼

静岡県内企業を中心に、全国 7,036 社に求人票・大学概要パンフレットを送付し、就職先の開拓を図った。

(ウ) 就職ガイダンス等の実施

- ・ 学内就職ガイダンスの実施（全 8 回実施）

- ・ 業界研究セミナーの開催

各業界から現場で活躍されている方を招き開催した。

（8 業種の企業等から講師が来校し、延 343 人の学生が参加）

- ・ 合同会社説明会

企業（28 社）の採用担当者を招き、合同で会社説明会を開催した。

（146 人の学生が参加）

- ・ 浜松地域企業セミナーの開催

愛知県と県西部地区の 8 大学が合同で行う企業ガイダンスに参加した。

（28 人の学生が参加）

- ・ 県外の就職ガイダンスへの参加
首都圏や名古屋で行われる大規模な就職ガイダンスに数多くの学生が参加できるよう、バスツアーを開催した。(80人の学生が参加)

(エ) 就職支援講座の実施

就職活動に有効な各種就職支援講座や就職関連試験を実施した。

講座名	区分	受講者数(人)
公務員試験直前講座	教養科目	24
	専門科目	14
公務員試験対策講座	教養科目	45
	専門科目	20
パソコンのMO S 試験対策講座		45
模擬面接・グループディスカッション講座		166
簿記3級試験対策講座		20

・ 就職関連試験の実施

試験名	受験者数(人)
適性検査 (CAREER APPROACH)	300
エントリーシート対策テスト	163
TOEIC学内団体試験	289
秘書検定学内団体試験	52

(オ) 求人情報等の案内

学生が企業情報を収集しやすいよう整備を図った。

- ・ 企業毎のファイルにより、会社案内、求人情報を閲覧できるよう整備
- ・ 過去の卒業生の就職活動報告書をファイル化し、閲覧できるよう整備
- ・ 50万社の企業情報が収録されたCD-ROMを整備
- ・ 本学に届いた求人情報をWeb上で検索できる環境を整備

(カ) デザイン専門職への就職支援

デザイン専門職を応募する際に必要なポートフォリオの作り方について、ポートフォリオ講座を実施した。

(キ) 首都圏等での就職活動拠点の整備

学生が首都圏や名古屋等で就職活動をする際の拠点施設として、民間サービスを利用した支援を行った。

(2) 学習支援

図書館の開館時間の延長、学生がインターネットによって英語及び中国語を学内外で学習することができるシステムの活用、学習支援に係る奨学金を支給するなど、学生の学習環境整備や支援等を実施した。また、英語・中国語教育センターを発足させ、TOEIC演習、ワークショップ、e-ラーニングを充実させ、実践的な語学力向上を図った。あわせて、静岡大学情報学部との単位互換制度を活用して学びの幅をより一層拡充するよう、積極的な周知を図った。

(3) 生活支援

生活保護世帯の学生及び経済的に困難であると認められる学生に対する学納金の減免を実施するとともに、カウンセラーによるメンタルヘルスの相談及びランチフォーラムなどの学生相互の交流の場を提供するなど、学生生活向上に結びつく相談及び指導等の支援活動を随時実施した。

(4) その他

「静岡文化芸術大学の学生の諸活動に対する支援の取扱方針」に基づき、学生の諸活動に対して、17件 3,006千円の支援を実施した。

6 交流事業等の実施

(1) 文化・芸術研究センター事業

両学部の有機的な連携のもと、文化、芸術分野の研究、交流、情報発信などの事業を実施した。

ア 文化芸術セミナー、公開講座の開催

・セミナー、シンポジウム

開催時期	4月22日	6月22日 1月11日 3月1日	7月12日	7月1日 7月25日 11月25日 12月17日
開催場所	大講義室	中講義室 浜松市地域情報センター	クリエート浜松	中講義室
開催内容	インドネシアの文化と教育	多文化こども教育フォーラム	企業の社会貢献フォーラム・はままつ 社会を変える企業のチカラ	オペラを観てみようーオペラは決して難しいものではない!その魅力を探るー
参加者数	150人	140人	150人	140人

開催時期	7月24日	11月8日 12月16日	1月24日	1月30日
開催場所	ギャラリー	大講義室	大講義室	大講義室
開催内容	えほん森の演奏会親子で楽しむ朗読コンサート	イブニングレクチャー2013	詩人 吉増剛造講演会 映像とともに	スペインそしてヨーロッパにおける高齢者の住宅事情
参加者数	35人	300人	80人	144人

・公開講座

区 分	前期公開講座	後期公開講座
開催時期	6月8日～7月6日	11月16日～12月21日
開催場所	中講義室	中講義室
開設講座数	1講座	1講座
テーマ	文化の接触と変容の現場へ －『国際文化学への第一歩』を めぐって－	デザインの最先端
開催回数	5回	5回
受講者数	延べ298人	延べ144人

・地域貢献特別講座

区 分	冠講座 講演会
開催時期	12月6日
開催場所	大講義室
開催内容	「ノルウェーの木の文化」
参加者数	250人

・公開工房

区 分	夏季公開工房	春季公開工房
開催時期	8月24日、25日、31日	3月22日、23日
開催場所	自由創造工房	自由創造工房
開設講座数	4講座	4講座
テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・木炭（または鉛筆）デッサン ・ピンホールカメラ ・揺れる彫刻（モビール） ・テキスタイル（手織り） 	<ul style="list-style-type: none"> ・木炭（または鉛筆）デッサン ・焚き火照明 ・揺れる彫刻（モビール） ・テキスタイル（手織り）
開催回数	5回	5回
受講者数	延べ35人	延べ28人

イ 産学官連携の推進

・第6回研究・開発成果発表会への参加

開催時期	6月6日
開催場所	アクトシティ浜松 研修交流センター
発表内容	UD+ (ユニバーサルデザインプラス) の考え方とCRP研究会の活動について
出展内容	大学紹介パネル展示、各種パンフレット配布
参加者数	130人
主催	静岡県 (共催)、静岡大学、静岡文化芸術大学ほか

・第7回ビジネスマッチングフェア in Hamamatsu 2013 への出展

開催時期	7月23日～24日
開催場所	アクトシティ浜松 展示イベントホール
出展内容	大学紹介パネル展示、各種パンフレット配布
参加者数	参加企業等 251 団体、来場者数延べ 8,200 人
主催	浜松商工会議所、浜松信用金庫

ウ 地域文化事業の実施、協力

・室内楽演奏会 2013

区分	梶山久美レクチャーコンサート 弦楽四重奏の世界	青銅の響き バリ島の四音音階の ガムラン・アングルンの世界
開催時期	6月1日	7月20日
開催場所	自由創造工房	自由創造工房・総合演習室
開催内容	弦楽四重奏のコンサート及び レクチャー	レクチャー&コンサート、ワークシ ョップ
参加者数	63人	177人

区分	バンバン!ケンバン♪ はままつ 2013	相曾賢一朗ヴァイオリン・ リサイタル
開催時期	10月26日	11月26日
開催場所	自由創造工房・総合演習室	講堂
開催内容	鍵盤楽器演奏会	ヴァイオリン・リサイタル
参加者数	370人	100人

・薪能

開催時期	10月8日～10日
開催場所	講堂、出会いの広場
内 容	第一夜：能講座 第一部座談会、第二部講演 第二夜：現代劇 第三夜：薪能公演 狂言「伯母ヶ酒」、能「葵上」
参加者数	延べ900人

エ その他

ニュースレター「文化と芸術」の発行

文化・芸術研究センターを拠点に行っている研究の成果や、活動内容を紹介するニュースレター「文化と芸術」を年2回（9月と3月に各1500部）発行した。

(2) 国際交流事業

国際交流の推進を図るため、次の事業を展開した。

大学名（国名）	事業内容
湖西（ホソ）大学校（韓国）	交換留学受入・派遣 <受入> 25.4～26.3/2人 25.9～26.8/1人 <派遣> 25.8～25.12/2人 25.8～26.6 /1人 26.3～26.12/2人 国際交流事業（韓国文化体験プログラム） 訪問団派遣 25.8.23～25.8.30 学生8名、教職員2名
浙江大学城市学院（中国）	交換留学受入・派遣 <受入> 25.9～26.8/3人 <派遣> 25.9～26.3/2人 教職員、学生交流訪問団受入 25.8.22～25.8.24/ 学生15人、教職員1人
フィンドレー大学（アメリカ）	留学生派遣 25.8～25.12/6人 25.8～26.5/2人 フィンドレー市訪問団受入 25.9.12/7人
ウェールズ大学トリニティ・セント・デイビット（イギリス）	留学生派遣 25.9～25.12/1人

(3) 大学の地域開放事業

本学の設置理念である“開かれた大学”の実現を図るため、次の事業を実施した。

ア 図書館・情報センターの開放

実施日	月曜日～土曜日（原則）
実施内容	利用対象者 20才以上の静岡県内在住・在勤者等 利用時間 平日：8時45分～20時、土曜日：10時～16時 利用範囲 図書の見学、貸出等 登録者数 609人（平成26年3月末現在） 利用者数 5,908人／年 貸出冊数 2,307冊／年

イ 自由創造工房の開放

実施日	月曜日～金曜日（原則）
実施内容	利用対象者 中学生以上 工房の内容 手織り、木工等の創作活動 登録者数 115人（平成26年3月末現在） 公開工房を夏休みと春休みに開催（参加者数 8月35人、3月28人）

ウ 施設見学

小・中・高校生、市民、学外機関等を対象に年間を通じて施設見学を実施するとともに、「県民の日」事業として大学施設を公開した。平成25年度には1,738人の見学があり、うち小・中学校の総合学習（ユニバーサルデザイン施設見学）の場として、12校から782人（引率者除く）の児童・生徒を受け入れた。

7 図書館・情報センター事業

「静岡文化芸術大学図書館・情報センター資料収集方針」に基づき資料を収集したほか、図書館・情報センターだより「温故知新」を刊行し、県内公立図書館での配布等を実施した。また、学部新入生全員を対象に必修科目「文化芸術総合演習」（導入教育）の中で「資料探索法」を行い、図書館の活用法やデータベースの利用法についての講義及び館内ツアー等を実施したほか、学内イベント関連等の企画展示を行った。

運営面では、開館時間の延長（開館時刻の繰り上げ・閉館時刻の繰り下げ）を引き続き実施したほか、学生証・教職員証等のICカード化に伴い必要となる対策・作業等を実施した。また、「静岡文化芸術大学学術リポジトリ（SUACAR）」を構築し公開したほか、大学公式Webサイトの更新に併せて、図書館・情報センター公式Webサイトをリニューアルした。

・図書館・情報センター資料所蔵数（平成26年3月31日現在）

区分	図書（冊）	視聴覚資料（点）	雑誌（種）
日本語資料	197,660	6,117	2,706
外国語資料	26,212	816	337
合計	223,872	6,933	3,043

・図書館・情報センター利用状況 (平成 25 年度)

区 分	入館者数 (人)	貸出冊数 (冊)	開館日数 (日)
総 数	114,001	34,798	280
(うち学生)	100,373	27,559	—

・他の図書館との相互協力 (平成 25 年度)

区 分	資料貸借 (件)	文献複写 (件)	備 考
依 頼	126	628	—
受 付	76	204	—
合 計	202	832	—

8 英語・中国語教育センター事業

(1) 英語・中国語の学習支援活動

次のとおり学習支援活動を実施した。

ア 英語・中国語教育センターイベント

各種学習サポート、Book Club、英語ランチ、中国語コーナー等

イ インターナショナル・コミュニティー・フォーラム

浜松在住の外国籍の方をゲストスピーカーとして招き、英語による各国の紹介、ディスカッション、質疑応答を行った (7 回実施)

ウ センター・ニュースレター等の発行

ニュースレター (年 4 回)、イベントカレンダー (毎月)、センターパンフレット (年度初め) の発行を行った。

エ 英語・中国語集中プログラム

春季 (4 月) に新入生向けに英語・中国語の学習方法についての指導を行い、夏季 (9 月) に集中英語セミナーを行った。

オ セミナー・個別相談

随時、留学準備のためのセミナーや、科目支援等の個別相談を行った。

カ 各種コンテスト参加

・英 語 模擬国連大会

・中国語 第 31 回全日本中国語スピーチコンテスト、全日本学生中国語弁論大会

キ デザイン・ゲート

専門科目内での英語プログラムの試行、他大学の専門科目への英語教育導入事例の調査等を行った。

(2) その他の活動

ア 小中学校教育支援

浜松市内の小中学校・中学校への訪問及び小学校の来学により交流を行った。

イ 特別講演

トルコ・イズミール大学の Gary Mcleod 先生のデザイン・プレゼンテーションの講演を平成 26 年 1 月 23 日に行った。

ウ 大学生ディベート大会

本学、静岡大学、静岡県立大学の学生によるグローバル問題をテーマとした、英語でのディベート大会を平成 26 年 2 月 20 日に行った。

9 情報システム等の整備

(1) 学内ネットワーク装置の更新

学内ネットワークサーバ、ネットワーク機器等の更新を行い、統合認証システムの導入を行った。

(2) 事務システムの更新

学籍・教務情報システム、人事・給与システム等の更新を行い、合わせて Web ポータル、出席管理、IC カード発行等のシステムを導入した。

10 自己点検・評価の実施

(1) 全学的な点検・評価

平成 24 年度に実施した 3 年に 1 度の全学的な自己点検・評価の結果を踏まえ、その評価結果を反映した平成 25 年度計画に基づいた取組みを実施した。

(2) 学生による授業評価

学生による授業アンケートを前期・後期に実施し、その結果を教員にフィードバックするなど授業改善を図った。また、学生の授業評価に対するコメント集を作成し、学生の授業に対する姿勢・態度等への反省や、授業への期待・意欲を高める機会とした。

・平成 25 年度後期分の概要

区分	内容等
対象科目	後期科目 308 科目のうち 305 科目（ゼミ、卒論等を除く）（実施率 99.0%）
質問項目	「学生自身の取組」「授業の内容や理解」「学習の成果」「授業の運営」「総合評価」「自由記述」など 10 問程度
回答率	70.4%
総合評価	4.3 < 5 点満点での評価による >

11 SD（スタッフ・ディベロップメント）への取組み

事務職員の研究・研修助成制度の活用促進、公立大学協会や日本能率協会等の外部団体主催の研修会に積極的に参加して SD 活動の推進を図った。

12 防災対策の実施

(1) 防災訓練の実施

大規模津波の発生を想定し、学生、教職員、来学者等を対象に、校舎屋上へ誘導する避難訓練など実践的な防災訓練を実施した。

(2) 安否確認システムの導入

災害時における学生・教職員の安否状況の迅速な把握のため導入した安否確認システムを本格的に稼働させ、これを活用して緊急時に的確に情報提供できる体制とした。

(3) 地震防災対策の実施

教職員の給与削減による財源等を活用し、太陽光発電による非常用電源の確保、非常食及び非常用備蓄品等の整備等の地震・防災対策を実施した。

13 ハラスメント防止対策の実施

ハラスメント防止啓発リーフレットを作成し、全学生及び全教職員に配布して周知するとともに、教員、事務職員及び相談員等それぞれを対象として演習形式を取り入れた研修会を実施して、防止意識の向上を図った。

あわせて、相談対応マニュアルを作成し、相談体制の強化を図った。

平成 25 年度 事業別執行額の状況

(単位：千円)

大区分	中区分	事業区分	決算額	内容
教育研究経費	教育経費	入試経費	15,838	募集要項・試験問題作成費、試験実施経費
		FD 活動経費	2,013	学科別研修会開催経費ほか
		学生経費	45,029	教材購入費、教育備品修繕費ほか
		教育施設等修繕・管理経費	174,730	水道光熱費、設備管理委託費ほか
		工房系教室情報システム経費	91,286	情報システム機器リース経費
		学生支援経費	29,073	授業料減免、奨学金給付経費ほか
		就職支援事業費	16,466	企業等訪問、就職ガイダンス、開催経費ほか
		地域貢献事業経費	8,660	自由創造工房開放、公開講座、実施経費ほか
		国際交流事業費	9,160	外国大学との交流事業経費ほか
	研究経費	教員研究費	117,116	専任教員の教員研究費ほか
		文化・芸術研究センター管理運営経費	601	印刷物発行経費、センター管理経費ほか
	教育研究支援経費	図書館経費	36,219	図書館施設管理費、図書購入費ほか
		情報システム経費	178,147	情報システムのメンテナンスほか
	教員人件費	教員人件費	886,529	専任教員等の人件費
		非常勤教員経費	64,452	非常勤講師等の報酬
	一般管理費	管理経費	大学広報経費	30,373
教職員住宅経費			17,516	職員住宅維持管理費、借上住宅賃借料ほか
施設・設備等修繕・管理経費			185,054	施設修繕費、警備、設備管理、委託費ほか
大学運営一般管理費			45,353	事務局消耗品、電話料、複写機、使用料ほか
学生募集経費			11,939	募集要項・試験問題作成費、試験実施経費
地震・防災対策経費			25,000	非常用電源の確保、非常食の整備ほか
役員報酬		役員報酬	52,950	常勤役員及び非常勤役員等の人件費
職員人件費	職員人件費	471,576	常勤職員等の人件費	
受託研究等経費			5,062	学外機関からの受託研究、受託事業経費
合計			2,520,144	

(参考) 静岡国際オペラコンクールに係る事務の実施

1 第7回静岡国際オペラコンクール開催準備

- (1) 実行委員会・企画運営委員会・推進委員会等の開催
- (2) 応募要項に係る諸業務
 - ・応募要項の決定
 - ・応募要項記者発表 平成25年9月11日(水) 静岡県庁
平成25年9月13日(金) 東京国際フォーラム(東京都)
 - ・応募受付 平成26年1月1日(水)～

2 オペラおもしろ講座の開催

- (1) 期日・会場
 - 平成25年12月8日(日) 本学講堂
 - 平成25年12月15日(日) しずぎんホールユーフォニア(静岡市)
 - 平成25年12月22日(日) 沼津市民文化センター小ホール(沼津市)
- (2) 出演者
 - ナビゲーター: 木村俊光(全会場)
(新国立劇場オペラ研修所所長、桐朋学園大学教授、第7回静岡国際オペラコンクール審査委員長)
 - 歌手: 新国立劇場オペラ研修所14-16期生
 - 伊藤達人(全会場)
 - 松中哲平、菅野敦、清野友香莉、藤井麻美、今野沙知恵(浜松、静岡)
 - 小林啓倫、原璃菜子(静岡、沼津)
 - 林よう子、村松恒矢(浜松)
 - 種谷典子、小堀勇介、飯塚茉莉子、岸浪愛学、日浦真矩(沼津)
 - ピアノ: 高田絢子(全会場、新国立劇場オペラ研修所ピアニスト)
- (3) 入場者数等
 - 総募集定員 1,520人、総申込人数 1,576人、総入場者数 1,214人